

(仮称)古河市新公会堂 基本構想・基本計画(案)

- 中間報告版 -



はじめに

古河市は、平成17(2005)年9月の1市2町の合併以来、市民の一体感の醸成と発展の基盤づくりに取り組んできました。しかし、文化芸術の振興という点では、新市建設計画で盛り込まれていた「拠点となる総合的な文化施設の整備」は未だ実現には至っておらず、市民の文化芸術を支えるための中核施設の整備が長年の課題となっていました。

本構想・計画は、これまでの検討の経緯を踏まえるとともに、市民の意見や要望を取り入れ、市民に求められている役割や機能などを整理し、(仮称)古河市新公会堂(以下、新公会堂という。)の検討結果を取りまとめたものです。

1. 文化芸術施策に関する動向の整理

新公会堂に関する、国や市などの上位計画について整理します。古河市では令和6(2024)年3月に「古河市文化芸術振興基本計画」を策定し、文化芸術環境の改善やそれらに触れる機会の拡大、また文化芸術の担い手の育成が課題となっており、本格的な発表や鑑賞の場の整備が望まれています。

2. 古河市の現況調査と分析

市民の意見や要望を把握するため、令和5年度の基本調査段階よりアンケートやヒアリング、ワークショップなど、様々な市民参画の場を設けてきました。

項目	実施概要
アンケート	市民アンケート(3,000人)、文化団体アンケート(480団体)、近隣類似施設アンケート、先進地施設アンケート
ヒアリング ワークショップ	文化団体関係、教育関係(中高吹奏楽部・演劇部)、プロモーター 市民ワークショップ全5回、中高生ワークショップ全2回

ご協力頂いた皆さま、
ありがとうございました。

市民アンケートで挙げられた主な意見(抜粋)

- ・お住まいの地域での文化的な環境に満足していない理由 → 近くに文化施設がない(66.3%)
- ・新公会堂はどんな場所にあるのがよいと思うか → 周辺の道路や駐車場に恵まれた立地(58.5%)
- ・新公会堂の特色として望むもの → 芸術文化を鑑賞する場(45.2%)
- ・新公会堂に併設する施設に求めるもの → レストラン・カフェ(71.6%)

3. (仮称)古河市新公会堂の目指す方向性と役割

新公会堂の目指す方向性と役割について、「(仮称)古河市新公会堂の整備に向けた検討報告書」でまとめられた「目指す姿」をもとに、基本調査の内容や市民委員会などで挙げられた意見を加えて以下のとおり詳細化しました。

目指す姿

「だれもが気軽に文化芸術を体感し、表現できる空間と、次世代への機会の創出」

基本的な役割

(1) 古河市の文化の「ド・マンナカ」

- ・いつでも文化芸術と出会い、触られる機会づくり
- ・本格的な舞台芸術の鑑賞・上演の場

(3) 新たなコミュニティを育てる「よりどころ」

- ・文化芸術を核としたコミュニティの創出
- ・古河で暮らす市民の心地よさ・安心を生み出す場所

(2) 賑わいがうまれ、活気があふれる「居場所」

- ・賑わいにあふれた、市民の文化芸術活動拠点
- ・文化芸術活動を通じて育てる、新たな「居場所」

(4) 次世代に向けた文化芸術活動の「育成拠点」

- ・未来の古河を担う活動を育む場所
- ・文化芸術を通して「ちがい」を受け入れ認め合う

4. 施設機能の基本方針

新公会堂の目指す姿と基本的な役割をもとに、新公会堂に必要な機能を抽出し、大ホール・小ホール・創造支援部門・共用部門の4つに整理するとともに、各部門の連携を機能図として整理しました。

部門構成

大ホール

- ・質の高い演目の鑑賞・上演機能に優れたホール
- ・多様な演目や鑑賞方法への対応

小ホール

- ・市民利用がしやすいホール
- ・展示や成果発表、文化団体同士や市内外の人の交流ができる機能

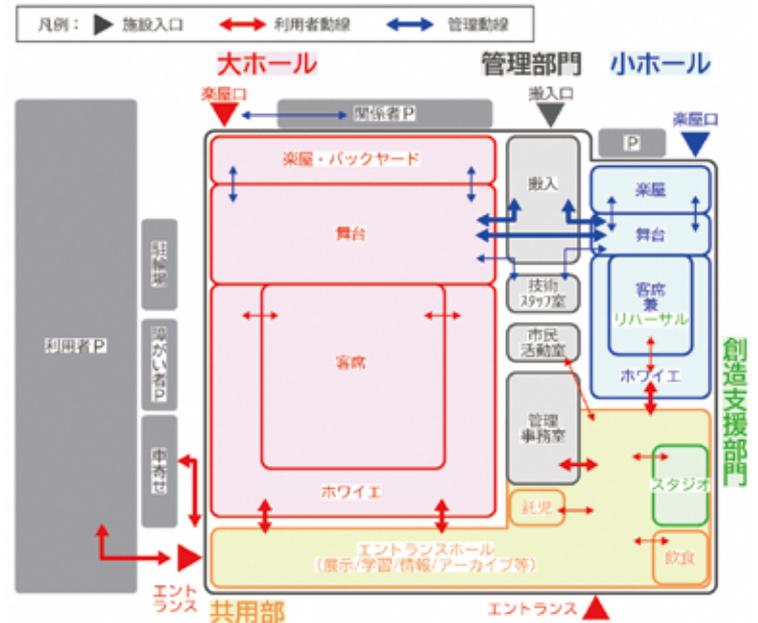
創造支援部門

- ・文化活動の拠点施設としての練習機能
- ・練習・創造機能の充実

共用部門

- ・いつ訪れても文化活動に触れることができる共用空間
- ・来館者が憩うことができる共用空間

施設機能図（イメージ）



※利便性や安全性を考慮して、各種動線、諸室の配置を検討します。

5. 施設整備の概要

市民が求める機能や役割を検討し、新公会堂が目指す具体的な施設計画を以下のとおり整理しました。

大ホール：上質な鑑賞ができる約 1,300 席のホール

- 市民による発表利用から、プロによるイベント利用に至るまで、幅広い利用に対応が可能なホール機能を備えます。
- クラシックコンサートや吹奏楽などの音楽利用、演劇やダンスなどの上演、講演会など様々な演目の上演が可能な設えとします。

- 客席**：1,300 席程度、2層バルコニー型の多目的ホール
少人数での利用もできるよう、1階席以外を隠せる設備を設置
- 舞台**：演技スペースは10間×8間以上、袖も十分な広さ・高さ確保
プロから市民まで使いやすく、様々な演目に対応できる設備を設置
- その他**：ホワイエ、楽屋、搬入口などを適切に設置



上質な鑑賞ができる客席のイメージ



様々な演目の上演が可能な設えのイメージ

小ホール：移動観覧席を備えた多機能型の約 300 席のホール

- 市民による利用がしやすい規模の小ホールを設けます。
- 移動観覧席（ロールバックチェア）を設置して、段床形式の演目だけでなく平土間形式でも活用できる、多機能型のホールとします。
- 大ホールのリハーサル室を兼ねる計画とします。

- 客席**：300 席程度、移動観覧席（ロールバックチェア）を設置した多機能型のホール
- 舞台**：平土間スペースは大ホールの主舞台と同程度確保
- その他**：ホワイエ、楽屋、搬入口などを適切に設置



移動観覧席を設置した多機能型ホールのイメージ



大ホールのリハーサル室を兼ねた空間のイメージ

創造支援部門：防音機能などを備えた高機能なスタジオ

- 創造支援部門の諸室は、市民による日常的な練習や創造活動の場となるための空間として整備します。
- 日常的な文化活動の様子が来館者に伝わることで、新たな活動をはじめのきっかけとなり、さらなる施設の賑わいづくりに寄与できる計画とします。

スタジオ：4室程度、市内の既存文化施設との機能分担を鑑み、高機能なもの（防音機能などを備えるもの）



防音機能を備えつつ、日常的な文化活動の様子が来館者に伝わるスタジオのイメージ



鏡などを備えた練習スタジオのイメージ

共用部門：憩いや交流の場となるロビー空間

- 共用部門は、ロビーとしての機能だけではなく、施設整備のコンセプトに合わせて様々な機能を有したフリースペースを計画します。
- 誰でも・気軽に施設を訪れることができ、文化活動を通じた市民同士・団体同士の交流を促し、新たな文化活動へ参加するきっかけをつくります。

共用ロビー：重ねづかいにより、情報スペース、学習スペース、展示スペース、アーカイブコーナーなどの機能を持たせるロビー
 その他：飲食機能、防災機能（屋外に設置する防災家具）、託児コーナーを設置



来館者が自由に使える空間のイメージ



誰でも気軽に施設を訪れ交流する空間のイメージ

管理部門

- 4つの部門を取りまとめ、施設を適切に管理運営するための諸室を計画します。
- 利用者が快適に施設を使うことができるよう、貸館や予約、維持管理に関する業務を行います。

6. 建設候補地の選定

敷地候補地については、市内の複数の候補地を比較検討した結果、新公会堂の整備に十分な敷地面積を確保できることや、周辺の開発を含めた新たな賑わい創出が期待できることから、大堤地内が選定されました。

大堤地内での新公会堂の建設は、民間事業者が行う周辺の開発と一体的なものとなり、新公会堂の建設場所は民間事業者の提案となります。そのため、民間事業者との継続的なヒアリングの実施を通じた円滑な整備を目指します。

また、今後、周辺の交通状況の調査を実施し、周辺道路への出入りをスムーズにし、交通状況への影響が生じにくくなるように検討を行います。さらに、近年発生している想定を超える豪雨などの水害に備えるため、治水対策の検討も行います。

交通インフラが充実した大堤地区を、文化・産業・商業の交流拠点を備えた新たなまちづくりの拠点として整備



7. 概算事業費と整備手法

新公会堂の整備に当たっては、施設の早期整備や、市の財政負担の軽減などを鑑み、PPP/PFI(民間活力)を導入する事業方式での整備を念頭に検討します。概算事業費については、設計費の他、施設整備費、造成工事費、調整池設置費、備品費などを含めて、現時点で総額 179 億円程度を見込みます。

概算事業費(従来の公共事業)

※金額は税込

項目		備考
設計	約 8 億円	
建物整備	約 143 億円 (杭工事を含む)	平米単価 130 万円
外構整備	約 8 億円 (駐車場 約 670 台)	平米単価 3 万円
その他	造成 : 約 12 億円 (地盤改良・用地取得を含む) 調整池 : 約 4 億円 備品 : 約 4 億円	
合計	約 179 億円	

※杭工事の費用はボーリング調査の結果等により変わる可能性がある

※財源:施設整備費については、地方債(充当率 75%)の活用を検討

※調査費は除く

事業スキームの比較

※赤枠で囲われたスキームが PPP/PFI(民間活力)導入手法

	従来方式	DBO 方式	PFI 方式	リース方式
一括公募の範囲	設計・建設・運営・維持管理を個別に発注	設計・建設・運営・維持管理を一括で発注	設計・建設・運営・維持管理を一括で公募	設計・建設・運営・維持管理・リースを行う事業者を公募
資金調達	市が実施	市が実施	民間が実施	民間が実施
事業期間中の建物所有権	市	市	市が一般的	民間

民間事業者へサウンディングを実施したところ、9社から PPP/PFI(民間活力)を導入した場合も事業参画に高い関心を持つとの回答がありました。また、立地条件・接道状況などについて大堤地内のポテンシャルを評価する意見を頂きました。

具体的な整備手法は、今後も民間事業者へのサウンディングなどを実施し、決定します。

8. 管理運営計画

新公会堂の整備に当たっては、施設が担う使命や果たすべき設置目的を明確にし、それらの実現を目標に、開館後の運営や維持管理などを適切に行う必要があります。

基本構想・基本計画においては、事業計画、組織計画、施設管理・運営規則、開館準備について方針を定めます。管理運営計画については、事業者選定と並行して検討し内容を詳細化します。

事業計画

施設の役割にふさわしい多様な事業を実施できるよう、事業方針を検討します。

組織計画

ホールの役割や事業計画を実現するため、適切な運営主体・市民参画体制を検討します。

施設管理・運営規則

適切な施設管理を前提にしながら、利用者にとって使いやすい運営規則を検討します。

開館準備

開館前から積極的に情報発信を行うなど、市民の関心を高める手法を検討します。

9. 事業スケジュール

働き方改革の推進や建設資材の調達期間の延長など、近年の社会情勢の変化を踏まえ、従前に比べて設計・施工に係る期間を十分に確保したスケジュールが求められます。基本構想・基本計画の策定後は、PPP/PFI(民間活力)の導入を前提として、事業者募集や整備手続きに2年半程度を見込みます。その後、土地の造成や、施設の設計・施工を4年程度見込み、新公会堂は令和14年度中に運用開始するスケジュールを想定します。

新公会堂の想定事業スケジュール

令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度	令和9 (2027)年度	令和10 (2028)年度	令和11 (2029)年度	令和12 (2030)年度	令和13 (2031)年度	令和14 (2032)年度
基本構想・計画	管理運営計画		造成・設計・工事			開館準備	運用開始	
	事業者選定準備・募集							